

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100182		
法人名	医療法人 正和会		
事業所名	グループホーム 夢咲		
所在地	佐賀市兵庫町大字西淵1930-1		
自己評価作成日	平成24年12月21日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の母体が医療機関という事もあり、健康管理には普段から介護士が小まめな記録を取り、週2回の病院から派遣される看護師による健康チェック、月2回の医師による往診にて身体の変化に早期に対応できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地の中に位置する、平屋建て、築2年の新しいホームである。バリアフリーで手すりや車椅子移動に必要なスペースも十分確保されており、生活しやすい環境が整備されている。近くに大型のショッピングモールがあり、そこに買い物に行ったり、家族も買い物に合わせて面会に来たりと、利便性が良い。入居者は穏やかに過ごされている。事業所理念にもあるように、入居者各個人を尊重した関わりを持つようにされており、管理者、職員は共通の意識のもと支援に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、施設玄関に掲示し常に目に付くようにし、また、外部へ公表し意識することで実践へ繋がるようにしている。	事業所独自の理念を持ち、玄関に掲示しつつでも確認出来る様にしている。全体会議の時にも確認し、職員が共通意識を持ち、支援に当たるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所での散歩・買い物を行い、地域ボランティアの受け入れや地域住民参加型のイベントを行っている。	日頃から近所の散歩を行い、近隣住民と顔見知りになっている。また、隣接する有料老人ホームと合同で行う夏祭りには、地域住民の参加があったり、地域ボランティアの受け入れを行ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等や地域ボランティアの方々を通して認知症の方への対応や現状などを知って頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で施設の方針や取り組みの説明・状況報告を行いそれについての外部の方と意見交換を行いサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回実施されており、参加者の中には同地区内のグループホーム職員も含まれ、意見交換や活動報告がなされている。内容は議事録にまとめられ、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター担当者に事業所の取り組みについての相談や逆に介護教室の情報などを頂いている。	地域包括支援センター担当者とは、情報交換や困難事例の相談などをしており、協力関係の構築ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロを施設内に掲示し、研修を行い職員の意識を高め、また定期的な見守りを行うことで身体拘束ゼロを目指している。玄関については防犯の為にオートロックになっている。	拘束に関する研修などを行い、職員の意識を高め、身体拘束は行っていない。玄関は防犯の為にオートロックとなっているが、外に向かう利用者がいれば、職員が付き添い、可能な限り散歩などに出掛けられるよう配慮されている。	玄関は防犯上オートロックとしているが、閉鎖された空間や、身体拘束の弊害なども考慮し、時間的な解除など、施錠に頼らない防犯の検討にも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修等に積極的に参加したり、マニュアルを作成し虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人が就かれている方も入居されており、研修等の機会があれば参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については詳しく説明し、不安や疑問がなく納得されたうえで締結を行うようにしている。また、見学者等へも気軽に質問等への対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会・担当者会議等で家族の意見・要望を募っている。また、その要望を連絡ノートや会議等で職員へ伝達されるようにしている。	意見箱を設置し、要望を募っている。また、家族会の際には、個別に面談する機会も設け、話を聞いている。普段の面会時も職員が家族と話し、意見を話してもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議への議題を全職員より議題募集用紙にて募集し、会議内で検討をしている。	職員会議の前に用紙を配布し、検討内容を募るなど、職員の意見を反映しやすいように工夫されている。また、施設長と職員間の意思疎通も出来ており、全体でホームの運営向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、運営会議を行い職場環境への改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に施設外研修にも参加をさせることによりスキルアップを図っている。月に1度施設内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加することでスキルアップを図るとともに、そこで他の事業所職員との交流の場として活用している。運営推進会議にも他施設の職員に参加してもらい意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者には計画作成担当者とは別に担当者を決め、本人・家族から要望などを相談しやすいようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、契約時、入居時、とその状況時に何が不安なのか、何を望むのかよく話し合いの時間を儲けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が置かれている状況下で必要とされるサービスの選択肢を提示しもっとも望む形に近づくように支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望や残存機能を尊重し、職員はそれを補助する形で関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型のイベント等を行い、繋がりを保持していただき、家族に援助をお願いできる場所は協力を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの理髪店の利用、かつて通っていた神社へのお参りなどを行っている。	家族からの情報を基に、馴染みの場所や関係を把握し、家族の協力を得ながら、理髪店や神社へ外出する等し、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室より共有スペースでの活動時間を多く取り、利用者同士が介助を行えるような場面作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もサービス・環境のスムーズな移行ができるように援助を行い、情報提供や面会などを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話などから希望や意向の把握に努め、それが困難な場合は家族からの情報などにより、本人本位の検討を行っている。	可能な限り本人との会話の中から思いをくみ取るようにしている。希望が聞き取れない場合は家族からの情報を基に、本人本位の支援が出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用されていた事業所からの情報や本人、家族からの聞き取りを行い、経歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り本人の過ごしやすいように努めており、日々利用者と接する中で状態の変化を見逃さないようにし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえ、職員間または医療機関も交え意見やアイデアを話し合ったうえで作成している。	計画作成担当者とケアを行う職員、また、家族や医療関係者とも連携を取り、本人の希望を基に計画作成がなされている。状況に変化が生じた際は、その都度見直しをし、定期的にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子等を記録し、ミーティング時に活用することで、情報の共有や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を取り入れ、日々の生活の中で必要と思われるサービスの受け入れに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアなどを活用することにより外部との繋がりや楽しみが持てる様な支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または、家族が希望するかかりつけの病院を受診出来るように援助している。	契約時に、家族の対応でかかりつけ医の受診をしてもらうようお願いしている。緊急時には母体の病院を受診することもあるが、契約時に説明し、同意を得るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に利用者様の状況の観察を行い、看護師への報告を密に行い相談および適切な対応を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報交換を医療機関と行い、診察時に家族と共にスタッフも立会い説明を受けることで安心して治療が出来るよう支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入所時に説明を行い、またそのような状態に本人がなられた場合医療機関等を交え本人家族と話し合いを行い今後の方針、支援のあり方を検討している。	契約時に重度化や終末期についての説明を行い、そのような際のリスクや事業所として出来ることなどを話している。実際重度化や終末期を迎えた際には、医療、家族と十分話し合いながら対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時には緊急連絡網等の活用により、医師や看護師への速やかな連絡及び指示受けられる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に備えて日中と夜間を想定した避難訓練を年2回実施しており、消防署員立会いの下行い指導を受けている。	火災や地震、水害を想定して避難訓練を実施している。消防署が近くにあり、火災の際はすぐに駆けつけてもらえる。周囲にアパートが多く、地域との関係作りがこれからの課題だと考えている。	避難訓練の際には、周辺住民にピラを配るなどし、事業所の存在と避難の様子を知ってもらい、いざというときの手助けが得られる関係作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、その方に合った言葉かけや対応を行いプライバシー保護に努めている。	入居者は人生の先輩だということを、職員全員が忘れないようにし、名前の呼び方、言葉かけなど、その方の尊厳を損なわないような配慮をしている。記録等、重要書類は厳重に保管され、プライバシー保護が来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に添えるように、本人への声かけを常に行い、自己決定できる場面を多く持てるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中には何をしてもよく分からない方も多く、職員側より出来るだけ多くの選択肢を用意し選んでいただけるように努めている。また自発的に訴えがあった場合は支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、整髪など自分で出来る部分は自己にて行っていただき、洋服選びや化粧などを職員の補助や介助にて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	観察を行い、好みや食べやすさ等を確認し、月に一度給食会議を行い、食事が楽しみとなるよう努めている。	日ごろのかかわりの中で、入居者の好みを把握し、食事に反映させるようにしている。買い物から調理まで、職員と入居者が一緒に行う機会もあり、入居者の力を活かし、楽しい食事が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の給食会議を行い、ひとりひとりの栄養状態、食べる量、形態、好みについての話し合いを行っている。水分補給が不足しがちな利用者については好きな飲み物を提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その利用者に応じた口腔ケアの介助を行い清潔保持に努めている。また週1回の歯科医、歯科衛生士の往診時にその都度相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表等の活用や利用者の行動観察にて排泄状況を把握を行っており、日中と夜間での適切な使用物品を検討している。日中は極カトイレを使った排泄が出来るように支援している。	排泄確認票を活用し、個人の排泄パターンを把握して、日中は全入居者がトイレでの排泄が出来る。夜間は眠剤の影響があるため、安全を確保しながら、個人の状態に応じた対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に把握し、飲食物の検討や毎日の体操などへの参加を促すなどしている。何日も排便がない場合は、看護師、医師に相談し対応を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3日入浴され希望者は毎日入浴されている。時間については本人に毎回声かけを行い、出来るだけ希望に添えるようにしている。	1日おきの入浴を希望される方が多いが、毎日の希望があれば対応できる体制を整えている。本人の状態に応じ、一般浴槽とリフト浴槽を使い分け、安心して入浴できるようにしている。近くの銭湯に出かけることもあり、入浴が楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室にて静養されたい方は自由に臥床して頂いている。夜間の就寝時間も自由で、思い思いに過ごされた後に就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明や勉強会等を看護師より受け、薬についての作用、副作用、注意点などを職員が把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活歴や生活習慣を踏まえ、家事を行なっていただいたり、買い物に出かけ好きなものを購入されたり、天気の良い日は散歩をしたりされる事等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の外出については日頃の会話等から本人の希望を把握し家族と相談、協力の上で外出して頂いている。	日常の散歩等については、希望に応じ職員付き添いで出かけている。遠方の希望には、家族等の協力をお願いしながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については家族と相談の上、普段は施設側でいったん預かり管理している。買い物などで外出する際に携帯して頂き、買いたいものを購入される際の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をかけたいと要望があれば自由に使用することが出来、また携帯電話を所持し電話を行なっている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温には常に気を配りエアコンや床暖房の調整を行い快適な温度を保っている。中庭の花壇には四季折々の花々を植えており季節感を採り入れている。鳥のさえずりの音を共用空間に流しており、落ち着いた気分になれるように配慮している。	室温、湿度に関しては常に快適に過ごせるよう配慮されている。不快な刺激となるような光や音等はなく、季節の飾りや、入居者が創作した物を飾り、楽しく過ごせる環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には2、3人掛けのソファをホールに3つ、廊下に1つ設置しており気の合う者同士ゆったりと会話が出来ようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自由に持ち込みが出来、家族の協力のもと本人の好きな物などを出来るだけ飾ったり置いてもらい居心地良く過ごせるように努めている。	個室には自由に馴染みのものを持ってきてもらい、居心地の良い空間となるようにされている。家族にも声かけし、本人の物を持ち込んでもらうように働きかけている。写真なども担当職員が飾り、楽しく居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力を出来るだけ維持して頂くために出来る事は自身で、出来ない部分は支援するように心がけている。建物内では表示等を行い場所などが分かりやすいよう環境作りに努めている。		